

## 第5回

南相馬市まち・ひと・しごと

創生有識者会議

会 議 録

南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議

## 第5回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

会議の名称	第5回南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議			
開催日時	平成27年12月12日(土) 13時30分開会・15時15分閉会			
開催場所	南相馬市役所 本庁舎2階 正庁			
委員長	高木 亨(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)			
委 員	移住者代表 副委員長		武藤 琴美	
	原町青年会議所	理事長	杉内 亜希	×
	原町青年会議所	総務委員会委員長	和田 智行	×
	小高商工会	青年部長	片岡 太成	×
	鹿島商工会	青年部長	若松 真哉	
	原町商工会議所	青年部副会長	松本 卓真	
	原町地区連合会	議長	諸橋 誠敏	×
	A.C.ハマーズ2001	副会長	原田 正己	
	A.C.ハマーズ2001		仲野内 勇作	×
	ひよこサークル		福崎 歩未	×
	原町第一小学校PTA	会長	谷田部 真敏	×
	あぶくま信用金庫本店営業部	融資係主任	遠藤 敬志	×
	移住者代表		鈴木 聡子	
	南相馬みらい創造塾	卒塾生	佐藤 まゆみ	×
事 務 局	復興企画部	部長	安部 克己	/
	企画課	課長補佐 兼企画係長	涌井 秀之	
		企画係主査	藤原 道夫	

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 協議事項

### ( 1 ) 南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

企画課主査

資料に基づき説明。

委員長

現在実施中のパブリックコメントの状況について説明を求める。

企画課主査

パブリックコメントについては、12月1日～21日の期間で現在実施しているところ。今のところ1名から意見をいただいている。意見の概要としては、市民意見の集約にあたり、現在のように行政側が委員を決めるのではなく、関心のある人が自由に意見を述べられる場を設けるべきというのが一つ。加えて、高齢者が活躍できる社会づくりとして高齢者の移住を進め、高齢者同士で助け合い、スポーツやレクリエーションを楽しむことで高齢者が暮らしやすいまちづくりを進めるべきではないかというもの。

パブリックコメントでいただいたご意見については、今後市として総合戦略に反映させるべきかどうかについて検討することとなる。

委員

素案については、あらゆる部分を網羅しており、抜け落ちている部分は特段ないと思う。

私がこの素案を見て感じたのは、今後人口が急激に減少していくということに対し、家業をどうしていったらいいのかということ。特に商工業者にとっては市場に直結することから衝撃的だと思う。

こうした情報は各分野のリーダー的な存在の人は持つべきだと思うが、そのまま市民に対して出すことは危険だと思う。時期を見て日本、東北、福島、南相馬の人口を比較対照できるものを公共施設の掲示板等に貼り出すところから始めると、人の意識も変わってくるのではないかと思う。

委員

実際にこれだけ人口が減っていけば、市内の商店は確実に減っていく。ガラガラの商店街となったときに、空き店舗が目立たなくするような見せ方が必要。人口減少は避けられないかもしれないが、きれいに見せるまちづくり

が必要だと思う。

委員長

確かに人口減少を前提としたまちづくりは必要だと思う。

委員

高齢化が進行すると、高齢者を介護する年代が必要。一人で二人を看るのはかなり負担が大きい。私の家の場合はおじおばが預かってくれたので、用事があるときには外出が可能だったが、そういう人が身近にいなければ、自分たちですっと面倒を見なければならぬ。高齢者自身がしっかりしていると、介護施設に入ることを恥ずかしがるし、そもそも要介護認定を受けていなければ施設を利用できない。そういったところへのケアがほしい。

委員長

「託児」ならぬ「託老」が必要なのもかもしれない。

委員

人口減少や介護の話は南相馬市に限った話ではなく、今後どの地方でも大きな問題となる話だと思う。

この会議は、比較的若い世代として集められているが、この世代よりも上の世代で元気に活動している人が多く、結果的にこの世代が発言することが難しい状況にあるように思う。ただ、地元にいるこの世代が危機感を持って、本気で何とかしなければいけないと思わないと、復興を進めることは難しいと思う。

委員

商売をやっていると、2011年当時と比べて「食の安全」に対する意識がだいぶ薄くなってきたように感じる。また、震災後これまで他県産の作物を食べてきて、改めて地元産のおいしさに気づかされる。進みは遅いが、「心の復興」は着実に進んでいると感じる。

ここでアクションをゼロにしてしまったら全て終わり。ずっとこれまでやってきたことが実を結んできたということがようやく見えてきた。以前と比べ自分の地域に対して客観的な視点を持てるようになった気がする。

委員

介護に関して、私が以前演劇に関係していたころにやったことで成功した事例をお話しすると、家族を介護している人が観劇するときに、自分の席を知らせておくことで、自宅から連絡があったらすぐに知らせる仕組みをつくったところ、大変好評だった。このように、考えれば大した手間をかけなくてもできることはたくさんあると思う。介護の充実イコール介護施設の整備

ということにこだわることなく、世の中全体でできることから始めれば、いろいろと変わってくると思う。

委員

私の家の場合、祖父は頭がしっかりしていたが体が動かない、人の世話になることが恥ずかしい、外に出るのを嫌がるという状態だった。祖母はデイサービスに通っていたが祖父はプライドもあってかコミュニティに入ろうとはしなかった。

委員

おじいさんでもスムーズにコミュニティに入っていけるように、何か役割を与えることが必要だと思う。

委員

男の人も基本的には話をするのが好きだと思うが、最初入っていくときに恥ずかしがる人が多いと思う。

委員

たまに自分の老後のことを考えるときがあるが、やはり男性はコミュニティに入っていくことが苦手なので、自分は家の裏に麻雀ができる小屋をつかって、午前中は草刈りをしながら午後麻雀をして、雑談をしながら過ごしたいと考えている。

委員長

特に男性高齢者の居場所づくりは大事だと思う。

委員

毎日決まった時間に仕事に行っていた人が、退職してとたんに放ったらかしになるのが一番よくない。退職後も人から頼りにされるようなシステムが必要だと思う。

委員

30年後、自分が高齢者になったときに、人口5万人に対する高齢者比率が大きく上昇し、今と状況は大きく変わっていると思う。ある程度そのときのビジョンは持っておくべきだと思う。

委員長

非常に示唆に富んだ話だと思う。男性にとって地域社会との関係性は、年を取ってからの保険になると思う。農業に従事されている方は地域との関係性が強いと思うが。

委員

確かにそのとおり。ハマーズもその一つだが、私は小高区の青年団にも所属しており、その中で神楽などで近い年代の人との接点がある。そのほか消防団などに所属することによってそれまであまり接点のなかった年の離れた人ともつながりを持てるようになった。大事にしていかなければいけないものという認識はしている。

委員長

そういったつながりを意識したきっかけはあったのか。

委員

震災前からいいものだという意識はあった。他地区だと会合で集まるぐらいで詳しくは人を知らないというところもあるが、様々なコミュニティに入っていれば所属する人となりかわかり、入っていてよかったと思える。

委員長

南相馬市だとサラリーマンの方もそれなりにいるのだろうが、地元で商売をやられている方も多いと思う。裏を返せばみんなが年を取ったときの強みにもなる。仕事ではない濃密な関係性を維持することで、自分の商売にもはね返ってくる。当然老後の遊び相手にもなるし、そういったことを何らかの形で知らせるきっかけづくりがあってもいいのかも知れない。

委員

ただ若い人は声をかけても、面倒くさがってなかなか入ってくれない。入ってきてくれれば和気藹々としていいコミュニティだと思っている。

委員長

直接的にこの総合戦略に載せるような話ではないかも知れないが、大事なところだと思う。結果的に南相馬市の暮らしやすさや魅力づくりに繋がる話だと思う。この会議からの提言書の中に入れられればと思う。

その他素案について意見はあるか。

委員

3点ほど意見を述べたい。

1点目は、P31に「移住者を積極的に受け入れる土壌づくり」とあるが、移住者を南相馬市に引き付けるための広報の取り組みが戦略にない。移住2年目で野馬追に出た人が知り合いでいるが、移住してすぐ野馬追に出られるなどと市外の人を思ってもみないことで、好きな人にとってはとても魅力的なことだと思う。土壌づくりももちろん大事だが、南相馬にどのような魅力

があるのかということも積極的に発信することが必要だと思う。

2点目は、P56の子育てサポート体制の充実について、「学童保育体制の整備」を加えるべきだと思う。

3点目は放射線に関する情報についてだが、「福島に住んではいけない」ということを言う人は、これからもどんどん増えると思う。それは私たちがこの地でどのように暮らしているかは関係なく、単に国に対して文句を言いたい人がいるため。それに対抗する取組をするべきだと思う。

委員長

南相馬市の場合、市長がYouTubeを使って世界に向けて発信した実績があり、海外に向けたインパクト、発信力はものすごくあると思う。それを上手に生かしたPRの仕方があると思う。

他の2点についても検討してほしい。

## (2) 有識者会議提言書について

委員長

有識者会議の提言書については前回も少し話をした。どのような形にするかということで、普通の報告書のようなもの、アイデア集的なもの、冊子ではなく一枚もの方がいいのではないかと、プロモーションビデオ的なものなど様々な意見が出された。

内容については、出された意見がある程度まとめるのが通常の提言書の形だが、そういうものではなくテーマに分けて出た意見を羅列していったほうがいいとの意見も出された。

次回、このような提言書でどうかということまで持っていくために、どういった形のものがよいのかということについて、意見をいただきたい。

委員

前回アイデア集を提案したが、きっちりまとめるのではない「アイデア帳」のような形が良いと思う。

委員

あまり重々しくしてしまうと、目を通してもらえなくなると思う。

委員

提言書は、誰に対して出すものなのか。

委員長

形式的には市長に対して出すものだが、できれば南相馬市の職員に読んでほしいと思っている。さらに言えば南相馬市民にも公表し、有識者会議でこ

ういう話をし、こういうアイデアが出されたので、ぜひ活用してほしいというところまで持っていけると良いと思う。有識者会議の成果の発信につながればなお良い。

委員

簡単に開くことができ、何かのきっかけになるようなものが良いと思う。

委員

漫画のような形がよいのではないか。漫画が難しいとすれば、顔写真があってその人が話しているような吹き出しがある形でもよい。

委員

一つ一つの文章は短くていいので、一言二言をわかりやすく書いていく形がいいと思う。

委員長

例えば「高齢者の介護」という話では、「実は介護している側のケアも必要だ」といったことを入れていくといいと思う。

委員

今まで言ってきたことを分解して、日めくりカレンダーのような形にしてもよい。

委員

LINE（ライン）の画面のイメージでもよいのではないか。

委員

その形であれば、紙に出す以外にも iPadなどでスクロールさせながら見ることもできる。

委員長

キャラクターはやはり「のまたん」か。市長のキャラクターをつくって会話をさせるのもいいかもしれない。動画作成の話が前回出されたが、どうするか。

委員

特に提言という形でつくらなければならないというこだわりはない。提言の中に「動画によるPR」を入れるということではどうか。

委員長



これまで5回の会議を開催してきた中で、様々なアイデアが出されてきた。私がメモしているものと事務局で記録しているものから、まずは並べてみて、どのような話が出ているのかを整理してみたい。

最初に皆さんにお示しするのは、キャラクターが入っていない状態でのLINE風のイメージのものになると思う。タブレットでどのように見せるか（パワーポイントか、PDFか）ということについても検討したい。その辺りについては、また皆さんとご相談しながら進めることとしたい。

## 4 その他

### (1) 次回開催予定について

事務局

次回会議は年が明けて1月23日に開くこととしたい。次回が総合戦略策定前最後の会議となる予定のため、できるだけ多くの方にご出席いただきたい。

委員  
了。

委員長

次回が当面の最終回ということであるが、提言書を市長に渡すタイミングをどうするかということについて、皆さんのご意見を伺いたい。

通常であれば最終回に市長の出席を求めて、会議の中で提言書を渡すという形が一般的かと思うが、今回の話の流れからすると、次回会議の段階では提言書を渡せるところまではいかないと思うので、次回皆さんの了承をいただいたうえで、別途市長に手渡すための会を設けたいと思う。

誰が市長に手渡すかというところで提案なのだが、今回の会議の主目的を「若い世代の意見を聴く」としている中で、できれば委員の中からどなたかに渡してほしいと考えている。

委員  
(仲野内委員、福崎委員という声多数)

委員長

名前の挙がったお二人については今回欠席のため、次回改めてお話しすることとしたい。

その他何かあれば。

事務局

これまで有識者会議の委員を務めていただいた諸橋委員が、このたび連合議長の職を辞され、南相馬市からも転出したとの連絡が連合から入った。このため、有識者会議の委員についても辞職することとなったことについて報告する。

次回からは、連合から新たな委員が加わることとなることについて、併せて報告する。

## 5 閉 会